

パブリック、プライベート、ハイブリッド: あなたのアプリケーションに最適なクラウドは?

パブリッククラウドの提供が急増している中で、プライベートクラウドが主流になってきています。サービスの提供とビジネスパフォーマンスの両方を最適化するために、ハイブリッドクラウドモデルの潜在能力をどう活用し、サービスをどう橋渡ししていくかが論点になっています。

この観点から、ご使用のビジネスアプリケーションに最適なクラウドデリバリーモデル(パブリック、プライベート、ハイブリッドのいずれか)を決定する方法を示します。

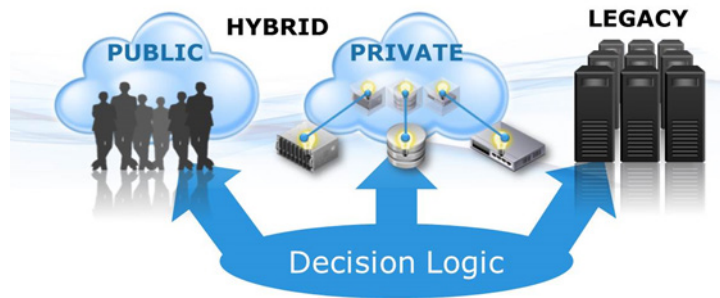
目次

クラウド展開の選択肢が増えている	3
ハイブリッド クラウドは上り調子	3
DELL EMCのアプローチ	3
クラウド アプリケーション アライメント.....	4
クラウド アプリケーションの適合性	5
クラウド アプリケーション配置の解析.....	5
まとめ	6

クラウド展開の選択肢が増えている

ここ数年で、プライベートクラウドソリューションは数字の上では成長していますが、パブリッククラウドに対する懸念は減少し、ハイブリッドクラウドが主流になってきています。現在、経営陣にとって差し迫る問題は、クラウドを利用するかどうかでもなく、プライベートクラウドを実装する方法でもありません。ハイブリッドクラウドモデルへの移行によって、クラウドの利点を最大にするにはどうしたらよいかということです。

市場がハイブリッドクラウドソリューションに移り始めると、さまざまな疑問に答えが必要です。各アプリケーションはどこに属し、新しいアプリケーションはどこに置くか。パブリッククラウド、プライベートクラウド、ハイブリッドクラウドか、それとも組織のレガシーコンピューティング環境か。最高のパフォーマンス、コスト、柔軟性はどこで実現できるか。今後2年以内に採用する可能性があるハイブリッドクラウドモデルとの互換性を持つには、現在のプライベートクラウドをどのように設計すればよいか。



ハイブリッドクラウドは上り調子

セルフサービスと、企業が必要とするパフォーマンスおよび可用性を提供する、より俊敏性の高い一連のサービスを、ITが提供する必要があります。自動化とセルフサービスのオプションを備えるソフトウェア定義データセンターで構成されるプライベートクラウドは、ソリューションの一部にすぎません。実際、多くのワークロードは、パブリッククラウドで、より低いコストで運用することに適しています。その結果、ITは、パブリッククラウドオプションから適切にハイブリッドクラウドモデルを採用しサービスの橋渡しをしなければなりません。

クラウドサービスプロバイダーの数が増加し、プロセス内でITをバイパスしてそれらのプロバイダーからソリューションをセルフソーシングしているビジネス上の利害関係者の人数も増加しているため、ITにとっては変更への動機がさらに高まっています。ITサービスにおいて企業のITによる従来の独占は終わっています。企業のITは、ビジネスのために外部のサービスプロバイダーと競争するように強いられているためです。成功には、ビジネスの利害関係者にとってより速い対応とより優れたサービスの提供が必要です。

多くの組織では、この実現に向けて、ビジネスの運用および遂行方法の変革を迫られています。企業は、ITの管理、提供、利用の方法について、その基となっている前提に対処する必要があります。ただし、最も重要な決定は、ハイブリッドクラウド用にアプリケーションデリバリーモデルを最適化することに重点を置くことです。

DELL EMCのアプローチ

企業がITを導入するための推奨される方法としてハイブリッドクラウド戦略を展開するときには、ワークロードの特性によって、それぞれのアプリケーションが稼働すべき場所を決定する必要があります。これによって、ITはITサービスを利用するためにシームレスなユーザーエクスペリエンスを、そのサービスのソースに関係なく提供可能になります。

洗練された自動適応プラットフォームとベスト プラクティスを使用して、Dell EMCは、クラウドにどのアプリケーションと情報が適切か、それぞれのクラウド モデルが最適か、企業が評価できるようにします。Dell EMCのアプローチでは、アプリケーション アライメント、アプリケーションの適合性、アプリケーションの配置の3個のレンズを通して、各資産とクラウドへの移行の可能性を考察します(図1を参照)。



図1: Dell EMCのアプローチ

Dell EMCでは、より速く効率的にビジネスとテクノロジーの両方の懸案事項を評価し、最適なクラウド モデルでアプリケーションを配置する、独自の適応プラットフォームを使用します。この自動化されたアプローチによって、従来の手動による技法に比べ、評価完了までの時間を50パーセント短縮できます。

Dell EMCの適応プラットフォームの2つの重要な要素(適合性と配置の解析)については、図2を参照してください。これらの要素を基に、クラウド向けアプリケーションの適合性を評価し、配置についてプライベート、パブリック、ハイブリッドのどのクラウド導入モデルが最適か提案することができます。



図2: 適応プラットフォームの適合性と配置の解析

クラウド アプリケーション アライメント

アプリケーション アライメント フェーズには、現在ITがどのように業務サービスを提供しているかを企業が理解できるように、特定のビジネス プロセスおよびアクティビティへのアプリケーションのマッピングを行います。ここで、ビジネス要求の推進要因をつかみ、ビジネス アクティビティに対するアプリケーション機能の妥当性検査を行います。次に、ビジネス アクティビティを関連づけ、アプリケーション サービス レベルの妥当性検査を行います。

クラウド アプリケーションの適合性

一般的なアプリケーション デリバリ モデルの指定

パブリック クラウド。 広く使用され、差別化されていない、100パーセントの可用性が要求されないワークロード。

プライベート クラウド。 最もコアなビジネス アプリケーション、特にミッション クリティカルなSLAを含むもの。

ハイブリッド クラウド。 ピーク時の要求に対応できるよう迅速な拡張が求められる、eコマースなどのマーケット向けのワークロード。

レガシー環境。 運用制御システムなど、特殊性の高いワークロード。

クラウド アプリケーションの適合性の判断は、従来のIT導入も含めて、どのクラウド デリバリティモデルにどのアプリケーションを配置することが適切かをDell EMCが判断し、最適なアーキテクチャを推奨する重要なフェーズです。ここで、アプリケーションの特長を次のようないくつかの基準で明らかにすることにより、さまざまなクラウド モデルが企業特有のビジネス要件にどのくらい対応しているかを評価します。経過期間、技術特性(データ管理、ワークロード、ワークフロー、アクセスなど)、ビジネス サービス要件(パフォーマンス、可用性、規制/コンプライアンス)、ユーザーの統計的データ、アプリケーション タイプ。

アプリケーション ワークロードの特性がわかると、アプリケーションのピーク利用サイクルを理解するためのユーザー利用統計データの収集が可能になります。特定のクラウド モデルに対するアプリケーションの適性を判断することによって、クラウド アプリケーション要件を収集し、設計手法を決めることができます。

EMCで採用している洗練された適応プラットフォームには、アプリケーション属性の他に、VMware® vCloud® Air™から、オンプレミスのプライベート クラウドや、Amazon Web Services、Rackspaceなどのベンダーによって管理されるホステッド クラウドへというように、パブリック クラウドとプライベート クラウドの12種類のアーキテクチャの特性を含むナレッジ データベースが活用されます。

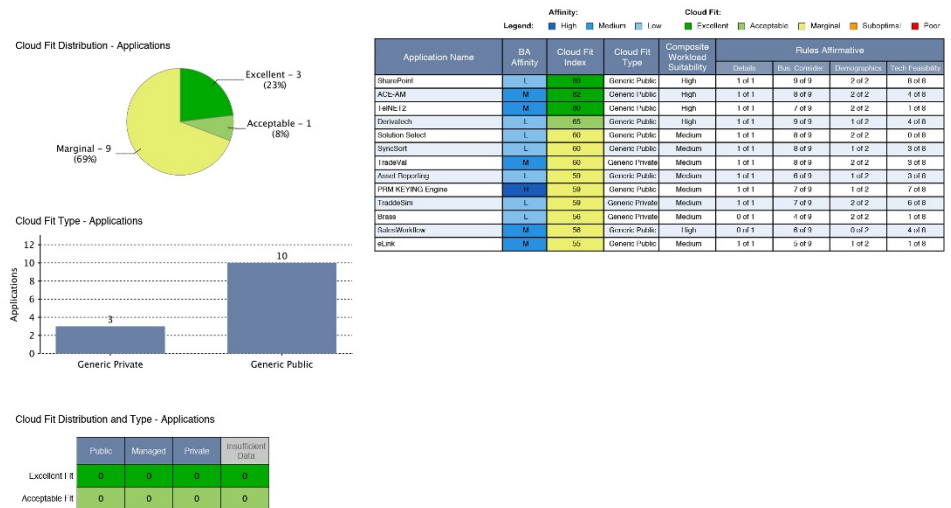


図3: アプリケーション適合性のPlanning Studioによる解析

図3に、Adaptivity Planning Studioの結果をいくつか示します。左側の円グラフは、クラウド適合性のサマリーです。その下のグラフは、ポートフォリオ全体の推奨クラウド モデルのサマリーです。右側は、アプリケーション別のビジネス親和性、各固有アプリケーション別にランキングされたクラウド適合スコア、全体的なクラウド適合スコアに影響するビジネスとテクノロジーの基準を示します。

クラウド アプリケーション配置の解析

クラウド配置の解析では、クラウドに適合するアプリケーションに対して最適なアーキテクチャを特定し、特定のアプリケーションに対してパブリック クラウドまたはプライベート クラウドの最適なデリバリティモデルを推奨します。ここで、クラウド用の詳細な論理アーキテクチャの提供を可能にする、アプリケーションの利用と導入のさらに精度を上げたモデルを作成します。次に、ビジネスの要求に基づいて、アプリケーションの現在および推定されるインフラストラクチャ利用の妥当性検査を行います。これにより、クラウドの規模の要件の予測と、論理的なアプリケーション構成の推奨を行います。

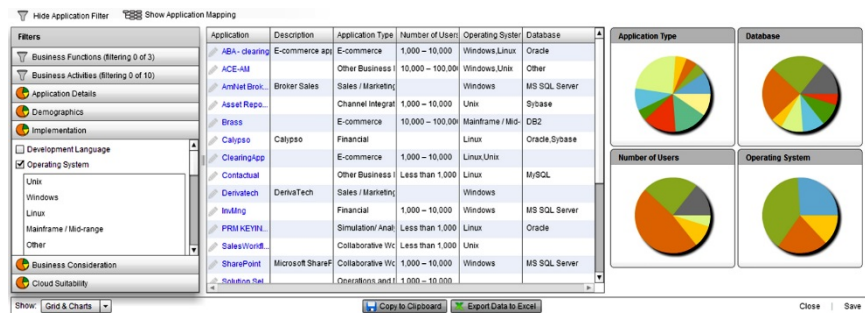


図4: 適応アプリケーション配置の解析

図4に、特定のアプリケーション属性を使用してクラウドの適合性を導き出す方法を示します。左側は、アプリケーション セットごとの属性を示します。これには、ライフサイクル ステージ、開発言語、セキュリティ環境、移行の複雑さ、ユーザー数、ビジネス適合率を含むことがあります。右側の円グラフは、経営陣同士で話し合いやすくして意思決定を促し、アプリケーション環境に関連する知識のずれを明らかにする動的なダッシュボードを提供するため、ポートフォリオ全体に対してアプリケーションの統計的データを比較したものです。

まとめ

ハイブリッドクラウドは、パブリッククラウドとプライベートクラウドの最高の機能を組み合わせ、複数の分野で同時に、より優れたビジネスパフォーマンスを実現します。これらの分野には、コスト、管理性、情報アクセス、新機能の導入、整合性とコラボレーション、ビジネス継続性とセキュリティ、ビジネスイノベーション、そして成長などが挙げられます。

Dell EMCは、効果的に運用されるハイブリッドクラウドソリューションの導入において先を進んでいます。EMCのコンサルタントは、ビジネスとテクノロジーに関する課題に対応するため、EMCの洗練された自動化プラットフォーム、数千を超える契約を獲得したベストプラクティス、情報中心型アプローチを活用しています。

クラウドにはどのアプリケーションと情報が適切か、それぞれどのクラウドモデルが最適かを決める準備ができている場合は、適応プラットフォームを活用して、Dell EMCの自動化アプローチで評価完了までの時間を50パーセント短縮できます。

お問い合わせ

詳細については、EMCセールス担当者またはEMC認定リセラーまでお問い合わせください。



EMC²、EMC、およびEMCのロゴは、EMC Corporationの登録商標または商標です。その他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。Copyright © 2016 EMC Corporation. All rights reserved. (不許複製・禁無断転載) Published in the USA. EMCの視点 H8539.5-J 08/16

EMC Corporationは、この資料に記載される情報が、発行日時点で正確であるとみなしています。この情報は予告なく変更されることがあります。

EMCは、デルのグループ企業となりました。